

日本科学者会議  
**京都支部ニュース** 12月号 No.430  
2019年12月11日発行

Tel/Fax : 075-256-3132

E-mail : [jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp)

URL : <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/>

ゆうちょ銀行振替口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：01050-6-18166

ゆうちょ銀行総合口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：14480-2800181

上記総合口座を他金融機関からの会費振り込みの受取口座として利用される場合は以下の内容を指定して下さい。

店名：四四八（読み ヨンヨンハチ） 店番：448 預金種目：普通預金 口座番号：0280018

・・・・・・・・ 目 次 ・・・・・・・・

- 「日本の科学者」読書会（11/19）大西広論文「階級対抗と経済政策」……………2
- 関西技術者研究者懇談会11月例会（11/10）「参院選の結果分析」の報告……………3
- 大阪支部主催・未来を開く科学講座<シーズン1>（11/23）「命のしくみ」の報告……………4
- ◆ 第3回近畿地区サポーター会議（12/1）の報告……………5
- 寄稿：安倍長期政権が残したもの（富田道男）……………6
- 寄稿：本の紹介「子供の生活と長時間保育」（清水民子）……………7
- ▼ 12～1月の支部関連行事の案内……………8
  - ・『日本の科学者』読書会例会（12/17）12月号特集「独立行政法人制度」
  - ・支部新年会（1/5）：若手研究紹介
  - ・第35回自然科学懇談会（1/25）「天ヶ瀬ダム・宇治川堤防の危険性」
- ◆ 支部幹事会・ワーキング会議だより……………9
- ◆ 近畿の催し物案内：「JSA近畿」No. 23.10……………10

<今年度会費の納入願い>

2019年度会費は11ヶ月分（一般会員：13,200円、特別会員：6,600円、家族割会員：3,850円、若手会員：5,500円、若手特別会員：3,850円）を納めていただくことになっています。12月5日現在で38人の今年度会費未納者がおられます。未納者には振込用紙を機関誌に同封するとともに、念のために別便でも請求書をお送りしますので、会費納入にご協力願います。  
(支部財政担当幹事・鈴木)

## 「日本の科学者」11月号読書会(11/19)報告

### 大西 広論文「先鋭化する階級対抗と実現可能な経済政策」

今回の読書会は、幹事会要請による大西広氏の出席を受け、論文テーマに鑑み広く聴講者を募る大西広氏講演会とし、11月19日(火)午後、京都大学芝蘭会館別館にて開催し20人余の参加で講演、質疑応答とし、活発な議論が行われた。なお、中国・香港情勢等について質問もあったが、本題ではないため深めず、12月21日(土)中国問題シンポジウムの紹介があった。

論文の主旨は「日本でも階級対抗が先鋭化していることが今回の参議院選挙で明らかとなった。これが野党共闘の外で先鋭な政策を提起した『れいわ』躍進の原因となっているが、政策の実現可能性にこだわった野党共闘の意義も大きい。本稿ではこの評価の上に、1998年参院選での共産党の躍進及び近年における大阪維新の会の躍進原因を政策論として分析し、『進歩派』の政策の在り方についての提言を行う。」で、4章で構成。

以下は、私の捉え方だが、「はじめに」では、左派の経済政策の重要性が強調されて来だした状況を紹介し、その上で、「(では)そもそも我々は『経済を論じていなかった』のであろうか」と問い返し、選挙等の焦点が政治的課題なのは、日本の支配者がアメリカ帝国主義と日本独占資本である限り自然のことであると、そして日本独占資本が財政を通じて私たちを支配しているのであれば、それが争点となることは各選挙での最重要論点が常に経済問題であることに現れ、今回選挙での「れいわ」の主要政策の全てが経済政策であったことでより明確になったとしている。

「1. 先進国で先鋭化する階級対立」で、消費税廃止を打ち出した「れいわ」に、比例区でかなりの共産党票が移動したことを国民意識の先鋭化の進行を示すものとして上げ、先鋭化が右派の伸長の手助けとなっている欧米の現状もあげて、左派はどのような路線を選択するのかと問題提起。

「2. 階級対立をより先鋭に主張する立場と野党共闘の立場」で、選挙が意見表明の場であり、狭義の実現可能な政策選択の場でもあるという性格から、参院選では前者を「れいわ」が、後者を野党共闘が受け入れる形で、比例区、選挙区での左派の躍進に貢献したと述べ、「3. 実現可能な財政政策という問題」では、野党が政権を任せられるかどうかの試金石として、財政収支バランスをとることを国民に示せるか、すなわち現実に即した財源論を示せることの重要性を述べ、「れいわ」も財源を示したことにそれが示されたとしている。

最終章の「4. 主流の逆を行くというだけの左翼的政策論からの脱却を」では権力や現状打破主張の政党が、左派と同様の主張を行ってきた際に、その反対だけの主張では革新勢力は後退することを、小泉内閣の「反公共投資」政策への対応や大阪維新の会への対応を上げて述べている。特に小泉政権後に「小さな政府論」を放棄したことが根源的ミスだと述べている。

本論文を深める議論が求められる。

(文責・竹中寛治)

## 関西技術者研究者懇談会 11 月例会（11/10）の報告

日 時 : 2019年11月10日（日）14時～17時

場 所 : 大阪国労会館

参加者 : 9名

### 2019年7月参院選結果分析

報告・国村 勝氏

今回の参院選は、安倍長期政権に対する評価と、年金の制度的削減による老後生活費 2,000 万円貯蓄が、にわかにはクローズアップされた。また「れいわ」や「N 国党」などの過激なワンフレーズ会派がリベラル左派の関心を引きつけた。

9 条改憲阻止の護憲派にとっては、32 の 1 人区全てで野党統一候補を擁立、自公維で 2/3 以下に追い込むことが至上命題であった。

選挙結果は、投票率 48.80%という低さの中、野党統一が 10 人当選、一方、自公は、過半数に達したものの、維新を加えても憲法改正発議に必要な 2/3 を維持することはできなかった。

しかし、その差は僅か 4、安倍自民は「国民」などの取り込みを画策、引き続き憲法改正問題は火種を残すことになった。

既成政党は、維新の選挙区を除きすべて得票減、比例区では自民、共産、公明が「れいわ」や「N 国党」に大量の票を奪われ大幅得票減となった。社民は比例で 1 議席確保できたものの、今後も党存続の危機が続くことに変わりはない。

### 討論（有権者数やその地域的偏り、各党の選挙結果は）

- ★有権者数は、約 1 億 600 万人、東京を中心とする首都圏一極集中となっている。
- ★野党統一が勝利したのは、東北など政治的に光が当たらない地方と思われる。
- ★自民は、改選議席 66 から当選議席 57 で 9 議席減となった。
- ★(立憲+国民)の比例得票は、2013 年選挙時の元・民進得票になった。
- ★公明は、7 県以外の立候補しない選挙区で自民に投票、自民政権を支えている。
- ★共産は、比例で「れいわ」に大量奪われ、選挙区 3、比例 4 の 7 議席に留まった。
- ★維新は、東京、神奈川でも当選、選挙区 5、比例 5 の 10 議席を獲得した。
- ★「れいわ」の比例票は、全県で約 4%、東京と沖縄は 7%台と突出している。

### これからの日程

12 月 8 日(日)	明石市長懇談会と丸亀城・備中松山城の紹介	出口幹郎 氏
1 月 12 日(日)	脱原発・脱炭素社会「太陽エネルギーの効率的利用」 (中小規模太陽熱温水・太陽熱発電編)	中村郁夫 氏

注：12 月例会の開始時間は 13 時、場所は国労会館 2 階小会議室。15 時から同じ部屋で小宴会を催します。

(文責・山口進次)

## 大阪支部主催 未来を開く＜科学講座シーズン1＞

### 「命のしくみ」

宗川吉汪

11月23日(土) 13:30~16:30, 国労大阪会館にて開催された大阪支部主催の未来を開く＜科学講座シーズン1＞「命のしくみ」で「**生命の不思議の世界**—生化学・分子生物学的アプローチ」と題して講演を行った。

参加者は、51人(講師を除いて)。そのうち会員15人、非会員36人(院生・学生2人を含む)とのことであった。

講演では、拙著『生命(いのち)のしくみ11話』(新日本出版, 2004)のうちから、「第2話 生命を育む水, 生命を包む脂質」と「第7話 生命を統べるRNA」を紹介した。この本は、学生と教授の対話という構成であるので、私の相手方として工織大前田研究室4回生の佐々木佐和さんをお願いした。

第2話では、水の中での細胞膜の脂質二重膜構造の形成におけるエントロピー変化を、第7話では、生物におけるRNAの機能、特に遺伝子暗号についてふれている。講演では、生体内の反応は、摩訶不思議な“生命力”ではなくて、熱力学の法則に従っていること、そして生命誕生から40億年もの間、遺伝暗号表が変化していないことを強調した。

先日、大阪支部事務局から参加者のアンケートの結果が送られてきた。そのうちのいくつかを紹介したい。

#### **本日の講座に参加された動機は何ですか**

生命についての認識を深めたい/遺伝情報の学習のため/基礎的生物学を再度学びたい/生命誕生、仕組みへの関心/修士の時に細胞発生学、分子生物学を少し学んだので/私の母校(京都工織大)の先生の講座なので/宗川先生が講師なので

#### **受講しての感想またはご意見などをお聞かせください**

- ・フリーエネルギーの話はとても興味深かった。
- ・DNAの役割, RNAの役割を細かく教わって興味深かった。
- ・講演内容の展開法がよかった。学生役の方の声が良いので心を和ませてくれた。講演は大変わかりやすく展開してもらい、話にも割とついて行きやすかった。ゆっくりと内容を噛み砕きながら展開されたのでよかった。
- ・今の私の理解能力ではなかなか難しい話だったが、生命の仕組みと言う概念で興味深く拝聴した。
- ・いろんな術語が入り乱れて難解だった。先生が元気で若々しく励まされた。
- ・討論型の講義でとても面白かった。ゆっくり進めてくれたのであまり知識がなくても楽しめた。最後の質疑応答でパラダイムの観点からの話しがとても印象的だった。現代の科学だけに固執せず、とても大きな世界で相対的に捉えているように感じた。
- ・門外漢には、やはり難しい講座だった。前半の細胞膜の形成はまだついていけたが、後半の遺伝子暗号の方は、導入は理解できているつもりが、だんだん分からなくなった。ただ、太古から情報のしくみが変わっていない、その形成がどのようにしてできたのか、まさに生命の神秘、ロマンは感じた。

## 第3回近畿地区サポーター会議（12/1）の報告

大倉弘之

2019年12月1日13時30分から16時30分まで国労大阪会館会議室で近畿地区サポーター会議が開催された。兵庫支部から1名、大阪支部から3名、滋賀支部から1名、京都からは大倉が参加した。

いつも通りの近況報告から始まり活動交流を行った。紹介された主な事項を列挙する。大阪からは、レッドページ70年集会兵庫の集い、独立警察監視機関の創設を求める論文発表。同支部和歌山在住会員から、畑で収穫した菊芋は参加者へのお土産に。和歌山カジノ反対集会でJJSを普及。京都からは、京大731学位論文でシンポジウム。霊長類研究者の好廣眞一氏による「どんな“さる”だったのだろうか？」で「人体実験の疑い強し」との結論。定例の11月号読書会を切り替えて、特集論文著者の大西広氏による講演会を実施。12月1日に甲状腺がん問題で講演会。「福島原発事故による甲状腺被ばくの真相を明らかにする会」が立ち上がる。トモダチ作戦被ばく裁判を題材とする「悲しみの星条旗」ビデオ上映会の各地での開催に関与（JJS談話室にも寄稿）。劇場公演の再演も含めて今後も続く。延期が決まった英語入試民間委託を含む大学共通入試問題で、シンポジウムの企画が動き出した（JJS特集も視野に）。滋賀からは、シカ食害で山崩れ視察、奥西会員ら国土研が調査に入る予定。英語入試問題で研究会。この取り組みで現役教員が2名入会。兵庫からは、1月11日に廃プラ海洋汚染問題で、磯部会員（岡山）を報告者にフォーラム。兵庫支部会員が8月号特集水インフラ問題についてのコメント、読者の声に投稿を勧めた。11

月2日の大学フォーラムに参加。梶田氏は引用件数トップ10の論文減を研究力衰退の指標に。大学授業料減免、奨学金問題でシンポジウム（FREEの中野典氏、2月号談話室に寄稿）。編集委員長（大阪支部）は、サイエンスカフェ（12月15日に地球温暖化問題、2月2日に英語入試問題）を紹介。

次に、編集委員長から来期編集委員会体制について、近畿地区編集委員3名：（大阪1、京都1）+1（兵庫or滋賀）で検討してほしい、新たに女性・若手枠を設けたので、編集委員候補を推薦してほしいとの要請。

続いて、JJSの合評会。主な意見を列挙する。10月号：p.8「刑法85条」は「185条」の間違い。p.6の表1の「EBITDA」が意味不明。p.30「依存省」は「依存症」の間違い。加村論文では、クモ研究の意義についても触れてほしかった。桜田論文でIR関連法の国会審議のずさんさがわかる。ギャンブルリーフレット配布への教育委員会の協力は問題。プログラミング教育の目標が分からない。早晚破綻するだろう。11月号：表紙に掲載する論文タイトルの選別ルールが必要。査読論文は含まれるべき。7ページでは主張したいことを書ききれない（編集委員長から、JSAのHPの補助資料掲載機能を活用して欲しい）。特集論文は国民生活優先の経済政策の具体的展開に及んでいない。麦倉論文で個人的な体験を記録してゆく意義は？9月号：本田論文：超低金利政策が庶民の所得を企業利益に移行させた。

今回は、2月9日（日）13時30分から国労大阪会館第2小会議室で開催。

寄稿：

## 安倍長期政権が残したもの

富田道男

報道によれば(京都新聞 11月19日朝刊)、2019年11月19日で安倍首相は、戦前の首相桂太郎と並んで最長の首相在職 2886 日となるそうである。その見出しは「首相、遺産なき 2886 日」となっており、桂太郎や佐藤栄作、伊藤博文、吉田茂など過去の長期政権を担った各首相の国際的な業績、例えば日英同盟締結、日露戦争勝利、沖縄返還、非核三原則提唱、日韓基本条約締結などが挙げられています。そして安倍首相は、これらの歴代長期政権を担当した首相に比べてこれといった「遺産」となる業績が無いとの主張です。

しかしこの主張は一面的です。マスコミは、安倍首相が国民生活にとって様々な負の遺産を数多く残していることを見過ごさずに報道すべきだと思います。

第一次安倍内閣が 2006 年発足すると、その年の 12 月に教育基本法を改悪しました。上記報道にもあるように、第二次安倍内閣では、2013 年 12 月に特定秘密保護法を成立させ、所管大臣が特定秘密事項に指定すると国会にもそれを秘密にすることができるようにしました。その年末には首相として、第二次大戦の A 級戦犯が合祀されている靖国神社を参拝して東アジア諸国から非難を浴びました。2014 年には 5%の消費税を 8%に引き上げ、2019 年にこれを 10%に引き上げました。い

うまでもなく消費税は、低収入の家庭ほど負担率の高くなる税制度で貧乏人を苦しめるものです。大企業には法人税を下げるなどの優遇税制を採って 400 兆円を超える内部留保を許し、所得税を累進課税とせず、国民の貧富の格差を一層広げています。また、2015 年には、「新安保法制法」を強行採決して成立させ、憲法第 9 条に反して、日本を戦争のできる国に変質させました。例年、首相が主宰してきた「桜を見る会」に「反社会勢力の人」を招待し、自分の後援会員を 1000 人規模で招待するなど、権力の私物化という腐敗状況が明らかになっています。

さらに、日本会議・靖国派閣僚を取りそろえる安倍内閣が 2886 日超というこれまでの記録を超える長期間にわたり政権に居座ることがもたらしたものは、高級官僚の人事権を握り「桜を見る会」問題や加計・森友問題で見られた虚偽の国会答弁や公文書改竄のように、行政の私物化という官僚制度の腐敗を招いたことです。そして、前述した数々の負の遺産を残し、庶民の生活を危うくしていることこそ、新聞が国民に知らせるべきことではないだろうか。権力におもねるマスコミを正すこともさることながら、安倍内閣を可及的速やかに退陣させなくてはならないと思います。

寄稿（本の紹介） 「働き方改革」のかけで  
— 『子どもの生活と長時間保育』を編集して—

清水民子

5月に龍谷大学で開かれていた「過労死防止学会」を聴きに行った。

私は「保育問題」のなかでも長らく保育所の「保育時間問題」にかかわってきた。「保育時間」ニーズを規定するのは、主要には子どもの親たちの「労働時間」である。専門ちがいで「労働時間」問題の議論をさく機会が少ないところ、たまたま予告記事を見つけたので出かけた。「過労死」は個人の健康管理の極限をこえて生じるので、「子育て」とか「保育」とかまでが話題にならないのは当然の世界だと思う。逆に、保育サイドでは、「あのお母さん過労死しはらへんか心配」「食事を取ってなくて、（子どもを迎えにきた）園で倒れはって救急車呼んで病院で点滴打ってもらって」などの話題を時には聴く。とくに「夜間保育」を実施している園では、低賃金のシングルマザーがダブルワーク、トリプルワークで生計をたてている家族を支えているので、そのようなエピソードに出会う。

もともと保育所の保育時間は「原則8時間」と定められていて、現在もその非現実的な規定は残っている。それでは8時間労働すらできないから、1960年代あたりから親たちの要求で「延長保育」が保育園の裁量あるいは自治体の独自行政でおこなわれるようになった。70～80年代には認可外のベビーホテルなど、「危険な施設」が社会問題になって、国が「延長保育」や「夜間保育」を制度化し、90年代、「少子化」が騒がれての「エンゼルプラン」では「通常保育は11時間」と決められたので、それをこえて夜間にかけて（あるいは早朝）行われるのが「延長保育」となっている。

このような長時間保育のもとで、子どもたちの1日の生活をどう計画するか、というのが私たちの問題意識であり続けてきた。世界一睡眠不足の日本の子どもたち。朝食抜きの登校・登園も少なくない。全国保育問題研究協議会（略称・保問研）の全国研究集会に設けられている「保育時間と保育内容」分科会は1972年以来、昨年までで47回にわたって、その時々の保育時間の状況に合わせて、「午睡」や「おやつ」「夕食」「補食（軽食）」、「夕方のあそび」「夜のあそび」など、子どもたちの必要と要求に対して、「保育園でできること」の工夫と実践を討論してきた。今年の夏、その成果をまとめて刊行することができた。

河本ふじ江・河野友香・清水民子・清水玲子・渡邊保博（編）

『子どもの生活と長時間保育—生活のリズムと日課』

新読書社・保育問題研究シリーズ, 1,700円

第Ⅰ部には、朝7時から深夜1時まで開園している、名古屋のかわらまち保育園・併設かわらまち夜間保育園の子ども集団編成と生活内容を紹介した。

第Ⅱ部には、全国保育問題研究集会の「保育時間と保育内容」分科会の討論をおさめた。

第Ⅲ部には、「生活時間認知の発達」「保育計画における日課」「保育労働」「保育所運営」「『保育指針』における生活のリズム」に関する専門研究者の論稿を収録している。

## 12～1月の支部関連行事の案内（JSA 近畿も参照）

### 1. 12月読書会

日時：12月17日（火）15:00～17:30

場所：支部事務所

『日本の科学者』12月号 「独立行政法人を問い直す」

笠松論文（宗川） / 長山論文（大倉） / 小滝論文（左近）

### 2. 第8回支部幹事会

日時：12月17日（火）18:00～20:00

### 3. 第8回ワーキング会議

日時：2020年1月5日（日）13:30～14:30

### 4. 支部新年会

日時：2020年1月5日（日）15:00～

場所：支部事務所

内容：若手の研究報告

### 5. 支部ニュース1月号編集

発行日：1月14日（火）13:30～

### 6. 自然科学懇談会

日時：1月25日（土）13:30～15:30

場所：楽友会館

講師：紺谷吉弘さん（京都支部，国土問題研究会）

テーマ：京都の断層環境及び天ヶ瀬ダム・宇治川堤防の危険性

概要：近畿三角地帯（藤田，1972）は中部日本ブロックと中国地方ブロックとの間にあって東西の圧縮力による変動を受け，種々の断層が発達する。

宇治川は秀吉が作った人工河川をもととし，破堤と修復を繰り返しつつ現在までほぼその姿をたもってきた。しかし天ヶ瀬ダム建設（1963年竣工）で土砂供給を絶たれて河床低下が急速に進行してきた。また天ヶ瀬ダム再開発・1500トン放流計画で直径26mの放流トンネルが掘削中であるが，工事開始から堰堤に亀裂が生じはじめ，昨年大阪北部地震で開口性亀裂が生じている。

## ◆ ◆ ◆ 支部幹事会・ワーキング会議だより ◆ ◆ ◆

第7回支部幹事会（11月19日）と第7回ワーキング会議（12月6日）の報告です。

### 1. 会員の現況（12月2日現在）

一般会員 215, 特別会費会員 3, 家族割り特別会費会員 3, 若手会員 6, 若手特別会費会員 11, 合計 238.

読者 3（12月でお一人辞退しました。）

### 2. 新入会員

久々に若手会員がお一人、2020年1月から入会します。一人でも多くの人を科学者会議に誘ってください。

### 3. 会費納入状況（11月30日現在）

今年度会費未納者：一般 30/216, 特別会員 0/3, 家族割 0/3, 若手 3/6, 若手特別 5/11

18年度会費未納者：一般 9名, 若手特別 4名

17年度会費未納者：一般 4名, 若手特別 2名

### 4. 会計報告（11月30日）

2019年度累計

収入累計 2,641,618 円

支出累計 2,309,951 円

収支累計 331,667 円

前年度繰越 419,566 円

11月末残高 751,233 円

2019年度11月決算

11月収入合計 44,471 円

11月支出合計 297,062 円

11月分収支 -252,591 円

前月繰越金 1,003,824 円

11月末残高 751,233 円

### 5. 11月～12月の支部関連行事（支部ニュース11月号発行～12月号発行）

11月12日（水）支部ニュース11月号発行, 「日本の科学者」12月号発行

11月19日（火）第7回支部幹事会

11月25日（月）京大に求める会役員会

12月 1日（日）JJS2019年第3回近畿地区サポーター会議

12月 2日（月）11・2憲法集会実行委員会（第4回）

12月 5日（木）バイバイ原発3・7きょうと実行委員会

12月 6日（金）第7回ワーキング会議

12月11日（水）支部ニュース12月号発行, 「日本の科学者」1月号発行

（文責・宗川）

